

平成28年度 帯広百年記念館移動展

ちょうちょ展 ＋ 足寄のチョウとガ展



帯広百年記念館移動展「ちょうちょ展」では、十勝に生息するチョウの標本とその生態を紹介します。十勝にはどんなチョウがどれくらいいるのか、チョウとガの違いはなにか、確かめてみましょう。チョウになれる撮影コーナーもあります。また、阿部宏さん（当時足寄町在住）が昭和63年から平成6年（1988年から1994年）にかけて足寄町で採集したチョウ72種、ガ450種の展示「足寄のチョウとガ展」も同時に開催します。見たことはあるけど名前がわからない姿もいっぱいです。ぜひご覧ください。

期間：平成29年3月2日（木）～4月10日（月）

場所：足寄動物化石博物館デスモホール

入場無料 ※展示室への入室には入館料が必要です。

足寄動物化石博物館 フォストリーあしよろ

指定管理者 NPO法人 あしよろの化石と自然

〒089-3727 北海道足寄町郊南1丁目 TEL 0156-25-9100 FAX 0156-25-9101

staff@museum.ashoro.hokkaido.jp

<http://www.museum.ashoro.hokkaido.jp> （博物館だよりpdf版あり）

No. 141

2017年 3月 8日発行
（年4回発行）

ボルネオで ゾウ骨格 組み立て 支援記

2016年度、国際協力機構(JICA)の派遣により、マレーシア国サバ州でゾウの骨格組立のお手伝をしました。事業の概要と滞在の印象を報告します。 【学芸員・館長 澤村 寛】

2016年春、以前から交流のある帯広畜産大学獣医解剖学佐々木基樹先生から電話がありました。「ゾウの骨格の組立はできないか? 場所はボルネオだ。」「え!ボルネオ?」

足寄で働く前に、東京の地下鉄工事現場で見つかったナウマンゾウの復元骨格を組み立てた経験はあるし、骨の組立は足寄博物館の得意芸でもあるので、「まあ できなくはないけれど」と応えたものの、ボルネオ?・・・ボルネオのゾウのことをよく知らなかったのです。

ボルネオ島の西半分はマレーシア。北部にサバ州があり、州都は人口55万人のコタキナバル。マレーシア・サバ大学「熱帯生物多様性・環境保全研究所」にゾウの骨格があるが、骨を扱う研究者がいない、マレーシアで初めてのゾウ骨格組立だ、とのこと。いくことになりました。

6月、1回目の訪問。研究所の一室に、ゾウの骨は「山積み」になっていました(写真①)。どの骨だかわからないという様子を読みとることができました。20数人のスタッフ(大学職員のほかに、州立博物館や野生生物局の人たちも)は、骨がどうなるのか興味津々、という表情で集まっていました。



よし、まず骨並べだ、と方針をきめました。20年ほど前、足寄町公民館でおこなった「博物館講座」の再現です。頭・背骨・肋骨・前あし・後肢あしとおまかな部位をスタッフに指示し、近くの講義室の床においてもらいました。おおまかな位置が判ると、次どうするの?、とせがまれるように。こうなると、背骨は形の変化を見て、手足はうまく関節するように、など、ツボを紹介して作業はどんどん進みました。体のどこだかわからなかった骨の山が、2～3時間で「ゾウ」になったのでした。(初日)

しかし、予想したとおり、指や手首、尾など小さい骨は紛失したものがけっこうありました。そのため、足寄博物館にあるゾウの骨格のレプリカを持っていったのでした。それを参考に手足の組み合わせで仮接着し、石膏や豊富な木材を使って、「ない部分をつくる」講習会に移行しました。(2～3日目)

全身の骨格を組み立てるには、ゾウが生きている姿を観察し体形を知る必要があります。また、別の動物でも組み立てられた骨格はたいへん参考になります。野生生物局管轄の動物園にはゾウが10頭ほどいるとのこと・・・動物園へいこう!②

【3ページへつづく】



泳ぐ 泳ぐ デスモスチルス

アショロアも

一昨年からつくりはじめた「泳ぐデスモスチルス」の全身骨格。全国的な広がりを見せています。



2016年9月～2017年2月、大阪市にある水族館「海遊館」（おおきなジンベイザメで有名）でひらかれた「デスモスチルスのいた地球―謎だらけの古代生物たち」でデスモスチルスを展示。



アショロアも、ついに泳ぐ姿勢をお披露目しました。2017年1月6日～9日、札幌の地下歩行空間で開催された「なるほど楽しい!!2017 博物館フェスタinチカホ」で展示。

2016年12月16日～2017年2月25日、本別町歴史民俗資料館でひらかれた「大昔、ここは海だった―化石」でもデスモスチルスが展示されました。

【2ページからつづく】

州立博物館にはクジラとサイの骨格が展示してある・・・見にいこう！ というわけで、博物館・動物園見学。初めて見たボルネオゾウは、小柄、背中の中程が高い、耳がおおきい、尾が長い、などの特徴があり、撮影したり、大きさを測ったりして組み立てにそなえました。（4～5日目）

組み立てるゾウは「Tagas」という名前であること、年齢は10代なかばの若いゾウだと聞きました。動物の骨は、若いうちはそれぞれの骨の端の部分が分離します（年齢とともに癒着し、例えば上腕骨などとして一個にまとまります）。接着剤で骨端をくっつけ、数日間乾燥させる、という作業に取り組みました。骨のしぼり方や「乾燥装置発明」など、工夫して効率よくすすめられました③。（6～8日目）

7日目には、セミナーが開かれ、足寄動物化石博物館の紹介と、北海道にもゾウがいた、化石がたくさん見つかることを話し、ボルネオでも化石が見つかるといいね、と締めくくりました。

※全身の組立の様子は、次号以降ご紹介いたします。



探鳥会

わたしたちの生活にもっとも身近な野生動物である鳥たちを足寄の野山で探りませんか？

予約不要・参加費無料です。
不明な点は博物館までお問い合わせください。

- | | |
|-----|--|
| 第1回 | 4月2日（日） 午前8時
足寄動物化石博物館の駐車場集合
（集合後、自動車で移動します。
自家用車で おいでください） |
| 第2回 | 5月14日（日） 午前8時
里見が丘公園駐車場の芝桜園入り口集合
（郊南交差点から西へ、国道241号沿い） |



各回とも2時間くらいです。十分な防寒で、第1回は長靴を履いてきて下さい。双眼鏡、カメラ、筆記用具があるとよりいいです。

新年度 からの 化石体験

来年度のミニ発掘・古生物模型作りに新しい種類が加わります！

古生物模型作りには、アンモナイトが加わります。

クリスタルにはソーダライトやブラッドストーンなど6種類、ミニミニにはコハクやトルマリンなど8種類、化石にはカシパンウニや直角貝、サンゴが新たに登場し、年間を通して入れ替わります。お楽しみに！



アンモナイト（古生物模型作り）

足寄動物化石博物館の利用について

- 開館時間 午前9時30分～午後4時30分（入館締め切り時刻）
- 休 館 毎週火曜日（祭日の場合は開館し、翌日またはその後の平日）
年末（12月30日から）・年始（1月6日まで）
※「海の日」から8月末までは、全日開館します。
- 料 金 一般 400円、小中高・65歳以上 200円
幼児は無料。 足寄町内の小中学生は無料。
※館の主催事業の際は、無料にすることがあり、その都度お知らせします。



今年度ももう少しで終わりです。昨年度は2万人を超える入館者がありましたが、果たして今年度はどうでしょうか？次号で報告できたらと思っています！